

自立活動学習指導案

単元名「いろいろな素材に触れてみよう」

令和5年7月 3年 指導者 T1林 圭佐 T2〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元観

対象とする生徒は高等特別支援学校3学年2名の生徒であり、2名とも重度重複障害である。

Aは人と関わることが好きである。写真カード等の視覚的支援で、予定に見通しをもつことができる。しかし、予期しない出来事や予定の変更があると受け止めが難しく感情的になることが多い。また、素材に触れる活動に対して苦手意識が強い。活動内容に対して感情的になったときに、教師が活動を中断すると、感情的になれば活動をしなくてよいと理解して、次回も同様の状況の時に感情的な表出をすることが多い。苦手な活動でも事前に予告したり、教師とやり取りをしたりすることで、気持ちを落ち着かせて活動を継続して取り組むことができる。本単元では、苦手な活動に取り組むときに、教師とやり取りをすることで感情的になることを抑えたり、活動内容を受け止めて取り組んだりすることを目標とした。

Bは人と関わることが好きである。写真カード等の視覚的支援で、予定に見通しをもつことができる。しかし、周囲の物や人に注意を向けてしまうことが多く、周りを見回しているためか、目の前に具体物を提示しても注視するのが難しいことがある。同様に一定時間特定の人に視線を向けることが難しい。本人が好きな物や音、特定の教師の声で注意を向けることができるようにし、意識を向けた方向に視線を向けたとき具体物を提示したり、また持ち運び用の黒板に写真カードを提示したりすると視線を向けることができる。本単元では、いろいろな素材に触れる活動に当たり、まずは素材に視線を向けて触る物を視覚で確認するために、教師の声かけで素材を注視することを目標とした。

2 研究との関わり

本研究では、重度重複障害児の社会参画を目指した自立活動の充実に取り組んでいる。自立活動の「人間関係の形成」と「環境の把握」の2区分9項目において、人と関わる力の育成を図る上で、研究協力校（以下、協力校）と重度重複障害者対応の生活介護施設を対象にアンケート調査を実施し、結果を分析することで、学校が考える人と関わる力についての視点と、社会が考える人と関わる力についての視点の両方を知り、社会へとつながる力の調査を行う。そして、その両方の視点と様々な先行研究を基に作成した実態把握表を活用することで、卒業後の生活を見越した人と関わる力の育成またその基礎・基本となる力の育成を図ることができると考える。協力校の特色として、自立活動の時間においては身体の学習に特化した学習活動が展開されることが多いが、そのねらいを「人間関係の形成」や「環境の把握」に焦点化することで、どのような活動内容であっても、人と関わる力の育成を図ることができると考える。その手立てとして、実態把握表と連動したチェックシートを作成した。チェックシートをタブレットで使用して本時のねらい（付けたい力）活動内容、手立てを定めることと、タブレットで授業前後や授業時にねらいを確認したり、授業後に短時間で評価を記録したりすることの有効性を検証したい。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
A	・ 教師とのやり取りを通して、感情を抑えて、素材に触れる活動に取り組むことができる。	・ 人と関わることが好きである。素材に触れる活動は苦手であり、落ち着かず感情的になることがある。
B	・ 教師の声かけで、素材を注視することができる。	・ 教師の声かけに視線で反応することができる。周囲の物や音に注意を向けてしまうことが多く一定時間物を注視することが難しい。

4 評価規準

A	・ 特定の教師と一緒に活動に一定時間取り組むことができる （3 人間関係の形成（2）他者の意図や感情の理解）
B	・ 人や物を注視することができる （4 環境の把握（1）保有する感覚の活用）

5 指導及び評価、ICT活用の計画（全6時間：本時第1時）

時間	■ねらい □学習活動 ★ICT活用に関する事項	◆評価項目＜方法（観点）＞
1 (本時)	<p>■新しい活動に対して、視覚的支援で見通しをもって、活動に取り組むことができる。</p> <p>□バギーに座りいろいろな素材に触れる。</p> <p>□いろいろな素材が置いてある場所に移動して、素材を選んだり触れたりする。</p> <p>★大きいテレビ画面でいろいろな素材やそれらを触れている写真を提示して、活動に見通しがもてるようにする。</p> <p>★チェックシートを確認できるようにタブレットの画面が見える場所に置く。</p> <p>★活動の様子をタブレットで撮影し、テレビ画面につなげて振り返りをする。</p>	<p>◆（A）教師とやり取りをする中で気持ちを落ち着かせて友達の活動の様子を見たり、自分でも活動に取り組んだりしている。＜観察＞</p> <p>◆（B）教師の声かけに反応し、視線を向けたり、それに続いて素材を注視したりしている。＜観察＞</p>
3	<p>■前時の学習を振り返り、見通しをもって学習に取り組むことができる。</p> <p>□ピットに座り、いろいろな素材を一つずつ触れる。</p> <p>□バギーに移乗し、いろいろな素材が置いてある場所に移動して、素材を選んだり一つずつ触れたりする。</p> <p>★タブレットで生徒が活動している様子の写真を提示して、前時を振り返り、本時の活動の見通しがもてるようにする。</p> <p>★チェックシートを確認できるようにタブレットの画面が見える場所に置く。</p> <p>★活動の様子をタブレットで撮影し、テレビ画面につなげて振り返りをする。</p>	<p>◆（A）教師とやり取りをする中で気持ちを落ち着かせて活動に取り組んでいる。＜観察＞</p> <p>◆（B）教師の声かけに反応し、視線を向けたり、それに続いて素材を注視したりしている。＜観察＞</p>
2	<p>■前時の学習を振り返り、見通しをもって学習に取り組むことができる。</p> <p>□ピットに座り、いろいろな素材を一つずつまたは同時に複数触れる。</p> <p>□バギーに移乗し、いろいろな素材が置いてある場所に移動して、素材を選んだり一つずつまたは同時に複数触れたりする。</p> <p>★タブレットで生徒が活動している様子の写真を提示して、前時を振り返り、本時の活動の見通しがもてるようにする。</p> <p>★チェックシートを確認できるようにタブレットの画面が見える場所に置く。</p> <p>★活動の様子をタブレットで撮影し、テレビ画面につなげて振り返りをする。</p>	<p>◆（A）教師とやり取りをする中で気持ちを落ち着かせて活動に取り組んでいる。＜観察＞</p> <p>◆（B）教師の声かけに反応し、視線を向けたり、それに続いて素材を注視したりしている。＜観察＞</p>

II 第1時の学習

1 ねらい

（A）教師と一緒にいろいろな素材に触れる活動を通して、教師とやり取りをする中で、納得したり受け止めをしたりして、活動に一定時間取り組むことをできるようにする。

（B）教師と一緒にいろいろな素材に触れる活動を通して、教師の声かけで視線を向け、目の前にある素材を注視することをできるようにする。

2 展 開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 はじめのあいさつをする。 (3分) 号令をかける生徒を決める。 S：教師の問いかけに対して、号令をする意思を伝える。 S：教師に促されて、何らかの反応で「礼」の号令をかける。</p>	<p>○始めのあいさつができるように、「始めのあいさつをしてくれる人？」と問いかける。 ○あいさつをする意思を示した生徒が、教師と一緒にあいさつができるように「これから自立活動の学習を始めます。注目。」と言った後、「礼」の号令を促す。</p>
<p>2 テレビ画面を見て、先生の話聴く (★)。 (10分) いろいろな素材の写真を見たり、先生の話の聞いたりする。 S：テレビ画面に視線を向ける。 S：教師の問いかけに対して、何らかの反応をする。 S：活動に対して緊張する様子が見られる。</p> <div data-bbox="167 813 794 931" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><めあて> いろいろな素材に触れてみよう</p> </div>	<p>○初めての活動に見通しをもつことができるように、大きなテレビ画面でいろいろな素材やそれらに触れている写真を提示して、活動について説明をする。 ○活動に見通しがもてたか確認できるように、「やる人？」と問いかけて、返答を促す。</p>
<p>3 バギーに座ったまま、いろいろな素材に一つずつ触れる。 (30分) ① 教師に提示された素材に手を伸ばして触れる。 S (A)：触ることにためらいを示す。 S (B)：視線の先に提示された素材に気付く。 ② たくさんの素材が置いてある場所へ移動して、素材を選んだり一つずつ触ったりする。 S：場所を移動して、気持ちを切り替える。 S：教師に二択で提示された素材を何らかの反応で選び、触る。 S：友達が活動している様子を見る。</p>	<p>◎教師が活動時に、生徒に身に付けたい力を意識できるように、チェックシートが見えるようにタブレットを置く。 ○(A) 気持ちを落ち着かせることができるように、声かけをしたり、友達の活動を見るように促したり、必要に応じて見守ったりする。 ○(B) 素材に視線を向けることができるように、視線の先に素材を提示したり、声かけに対して視線を向けたときに素材を提示したりする。 ○活動に取り組んでいることを称賛する。</p> <div data-bbox="882 1417 1436 1686" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目</p> <p>(A) 教師とのやり取りを通して、気持ちを落ち着かせて活動に参加している。 <観察> (B) 教師の声かけに反応し、視線を向け、それに続けて素材を注視している。 <観察></p> </div> <p>○視覚的に振り返り活動を行うことができるように、生徒の活動の様子をタブレットで写真や動画を撮る。</p>
<p>4 本時を振り返り次時への見通しをもつ (★)。 (5分) タブレットとつながったテレビ画面を見て、本時の学習活動を振り返る。 S：テレビ画面に視線を向ける。 S：教師から称賛されて、何らかの反応をする。</p>	<p>○生徒が本時の学習を振り返ることができるように、タブレットをテレビに接続し、撮った写真や動画をテレビ画面に映す。 ○振り返りで生徒が達成感をもつことができるように、取り組んでいる様子の写真や動画を見ながら一人一人を称賛する。</p>

<p>5 おわりのあいさつをする。 (2分)</p> <p>号令をかける生徒を決める。</p> <p>S：教師の問いかけに対して、号令をする意思を伝える。</p> <p>S：教師に促されて、何らかの反応で「礼」の号令をかける。</p>	<p>○終わりのあいさつができるように、「終わりのあいさつをしてくれる人？」と問いかける。</p> <p>○あいさつをする意思を示した生徒が、教師と一緒にあいさつができるように「これで自立活動の学習を終わりにします。注目。」と言った後、「礼」の号令を促す。</p>
--	--

Ⅲ 備 考

参考文献、著作権関係等

- ・長崎自立活動研究会(2019) 「自立活動学習活動内容要素表」
- ・広島県立福山特別支援学校(2023) 「重度重複障害児のアセスメントチェックリスト」
- ・古川勝也編集、一木薫編著(2016) 「自立活動の理念と実践」 ジアース教育新社